
レクイエム

妄想素人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レクイエム

【Nコード】

N1047Y

【作者名】

妄想素人

【あらすじ】

化け物が突然あらわれた。そして世界が崩壊した。そこで優歌は夜音達と出会い…神や魔、人、人でなくなった者達の戦いのなかにこの化け物は何なのか……優歌が進む道は……。

異能・化け物・神などが出てくる、バトルあり恋愛？ありのバトルファンタジー。

始まりと出会い!?

7月16日

「キサラ島」

そこは、

誰も知らない…

誰もみえない…

誰も行けない島 ……!

その島の奥に、封印されている者がいる。そこで…“ガキヤギイ
ゴンバリイドス…ガチャ”と音がした。その時、その封印が
解けた。 いや…破壊された。

すると、

「…………ツカハ、ふう」

と、封印されていた男が出てきた。

『久しぶりです。夜音様^{ヤオート}』

と、二人の女が声をそろえて言った。この二人の女は、マントの
ようなものを着ていて姿がよくわからない。

「おお!!! 久しぶりだな。マヤ! カヤ!!!」

と、夜音が笑顔で言った。

『はい』

と、二人は嬉しそうに返事をした。

「オレモイルゾ。ヤオト」
黒い狼が現れていった。

「ん?! おお、久しぶりだなフェル。……」
と、言い… 隅にいた三匹の犬に
「ライ、ケイ、ヒョーも久しぶり。」
と、話しかけた!

すると、隅にいた三匹の犬が、

「……………」黄色い犬

「……………」赤い犬

「……………」青い犬

……………何も答えなかった。

「…お前等、照れてんのか?」
と、夜音は嬉しそうに言った!

「……………そうか、始まるのか」
「……………はい」

「ドウスル、ヤオト」

夜音達は話し合っていた。

そして、夜音は
「俺達も動くぞ!」
と、言って!

「……………」ヒュ〜」
と、何かのメロディーを口ずさんだ…すると、“バキヤ”と音が

して、夜音達の周りの空間に、ヒビが入り、そして、割れたガラスのように落ちていった！！すると鎖が夜音達の周りに現れた！！…
…というより、初めから、そこにあった…見えない鎖が夜音によつて、見えるようになった！！と、いうべきだ。

そして、

「……………《救われぬ者に鎮魂歌を 使えぬ神なら殺してしまえ》

壊

と、夜音が言うつと！…“ツビギヤ！！！！”つと、その鎖が破裂していった！！

「……………これで俺の封印も完全に解けたかな？」

と、笑った！

そして、夜音達は真面目な顔をして…

「ハジマル」

「…ああ、終わりが始まる…神のな！！」

と、呟いた！

そして《世界の崩壊》が動きだしていた……………。

7月24日

朱い紅い赤い！！世界が赤く 染まっていく… 世界が崩壊してしまつた。突然、化け物が世界中に出現したのだ。その化け物は、人を殺し・喰つて・破壊していった。最初は人も抵抗をしていたのだが……今はもうわからない。しかし、これだけはいえる…世界は崩壊してしまつた。

7月27日 21時

西にある…「ココンバ」という、壊された街で、一人の少女が走つていた。“ダダダッダッダ…”

「っん…ハアハアはあ」

とても苦しそうだ………！

桜優歌さくらゆうかは逃げていた。…彼女は茶髪のショートカット、身長155cmくらいで綺麗というより可愛い印象だ。(もう嫌！！何よこれ)優歌は内心つぶやいた！(こないだまで、普通に暮らしていて…何もなかったのに！あんな…わけの分からない化け物が何で現れるのよ…あの化け物のせいで世界が終わっちゃうの！？………そんなの、やだよ)

その時、

「た・す・けて…」

と、近くにいた！…というより転がっていた、血まみれの物！…
…たぶん男の人だったものが呟いた。

すると、

「ひっい！ いや」

と、優歌は半ば泣きながら…逃げだした。

そして…三分ほど走った、優歌は、近くにあった…コンビニの中に、逃げ込み、レジの所に隠れる。

そして

「…っ！っんっ…！ハアハアハア」

と、非常に苦しそうだ！！

そして優歌は

「…もう・嫌…誰か助けて」

と泣きだした。

その時、 ‘ガッジャン！パキン！！バリバリバリ！’ って音がした。窓が割れた音だ！！そして、“バキヤバキ”とガラスや色んな物を潰しながら…コンビニの中に、何かが入ってきた！

その時、

「……………っひいー！」

と、叫びそうになったのを…手でおさえた！そして、優歌は“ビクッ”と身を強張らせて…パニックになりかけた！！そして…レジから“そ〜”っと、顔を出して、入ってきたものをみた。すると…そこには、赤い蛇！！…いや、血に染まった！白い蛇がいた。ただの普通の蛇なら、よかったのだが…現れたのは、普通の蛇じゃない！！まず…そのサイズが違う。…その太さは…大人を簡単に、丸のみでできるくらい太いし！！そして、その長さも異常だ…！！20m以上は確実にある。しかも、頭があるはずの場所に黒い花が咲いていた！！！！

「な何よあれ…死にたくないよ」
と、優歌は腰が抜けた…！！そして、その場で“ガクガク”と震えて！そこから動けなかった。

7月26日

「……………チッ！」
「モウ！ハジマツタナカ！！」
『……………早い！』
「……………！！」

と、夜音達は世界が崩壊する…その光景を目の当たりにした！！

そして、

「……俺達も始めるぞ!!」

と、夜音が言った。

『はい!』

と、マヤとカヤは頷き。

「ドウスルノダ!!」

と、フェルは聞いた!!

すると、夜音は笑い…

「……まずは、あいつらの…封印を解くとするか!!」
と、言った!

そして、

「ライ・ケイ・ヒョー・マヤ・カヤ!……お前等、封印を解いてきてくれないか?!」

と、お願いした!

すると、

『はい…夜音様の頼みなら私何でもします!』

と、マヤとカヤは嬉しそうに頷いた!

そして、

「……………!!」

と、無言だが…三匹とも頷いた!!

そして、夜音達はそれぞれ…別の場所に向かっていった!!

7月27日「ココンバ」21時15分頃

優歌はまだコンビニにいた！

化け物がコンビニに現れてからしばらくたつたが……化け物はまだ近くをうろろろしていたので、動く事が出来なかった！！そして、優歌は泣きながら……！

「早くどっか行ってよ」

と呟き、足をくみかえた。すると……“ゴト”……と、何かが落ちる音がした！優歌は音がした方を見た……すると、ケータイが落ちていた！！……さっき、足を組み替えた時に、ポケットから落ちたようだ！

（……………！！……？……！やばっ）と優歌はパニックになった！！

その時……蛇もその音に気づいたらしく……“ザッザザ！”とこっちに来た！！

「……っ！！っえ、っっひっ！ やめて……ゆ許して、お願い」

優歌は逃げようとしたが腰が抜けていてにげれなかった……！

そして、化け物は優歌に頭を近づけてきた！

「いいやあゝ ああ……」
優歌は悲鳴をあげ！……………気を失った。

「ヒガヤアシャア！！！！」

と、優歌を食べようとする化け物に、

「ゲアルアガウ……」

と、黒い狼が飛び掛かるのを…優歌は気を失う一瞬前にみた。しかし、その後すぐに優歌は気を失った。

始まりと出会い？

7月27日 21時10分頃

「ココンバ」という街に、一人の男がきていた。

その男は身長170cmくらい！で、引き締まった体をしていた。
…髪はほんの少し長めで、綺麗な青色だ。そして、整った顔をして
いる！

11

そして、彼は周りを見て、

「どこにいる……………」

と呟き！周りを見た。…………男は何かを探しているようだ。

すると！そこに一匹の黒い狼がきて

「ヤオト…ヤツノ、ケハイガスル」

と、言い！

「…イクゾ！」

と、続けた！

夜音と呼ばれた男は、

「ああ、行くぞ！」

と、頷き……”ダツ”と、地面を蹴った。すると、狼も”シュツ”と、地面を蹴った！……………そして、二人はその気配のする方に駆けていった！

そして、

「…………イタ！」

「…………！！！」

と、夜音とフェルは壊れた……コンビニの前にたどり着いた。そして……そのコンビニの前に、白い化け物がいた。化け物は何かを探しているようだ。二人はそれを見て……………。

「鬼か！」

「オニダー！！！」

と、何か気に食わなかったのか……残念そうな顔をし、呟くように言った。

その時、フェルが……

「ヒトガイルゾ！」

と、コンビニの何に……化け物に怯えて、“ブルブル”と震え、泣きながら、必死に化け物に見つからないように、かくれている……少女をみつけた。そして、その少女を見て……………何かに気付き、驚いた顔をした。

そして、夜音も、

「…ああ！」

と、少女の方をみた……………すると、

「……………あの娘は……！」

と、少女を見て……………部屋の掃除をしていたら、ずっと大切にしていた物が見付かった……………みたいなの、驚いた顔をしていた！……………そして、少し、泣きそうな顔になっていた！

その時……………！！！！

「やめて…ゆ許して、お願い！……………いやあ、ああ……………」

と、コンビニの中から悲鳴が聞こえた。

そして……………

「フェル！助けるぞ！」

と、二人は“ザッ！”とコンビニの方に飛び出した！

その時、化け物は

「ヒガヤアシヤア……！」

と、少女を食べようと……………頭を少女に近づけていき……………

……………その花の真ん中にある口を開き、少女を食べようとした！！……すると、その時！

「グアルアガウ……………」

と、一匹の黒い狼が目の前に、すごいスピードで現れた！……
フェルだ。そして……“ドン！！！”と化け物に体当たりをかました
のだ！！……すると化け物は、吹っ飛び！……そして、壁にぶ
つかり“ガッシャンバヤバキ！！”と、その壁を壊しながら……外に
転がっていった！！……その間に夜音が少女を助け出した。……
……その後すぐにコンビニが“ドアアオン！”と、ものすごくデカイ
音をだしながら崩れていった。

そして、化け物が飛ばされていった方に夜音達は向かい、すると……

「ビシャアルヤ」

と、化け物が夜音達に威嚇してきた！！

「グアアルアガウ」

と、フェルも威嚇すると。

「ドウダ……ヤオト」

と、夜音に聞いてきた。すると夜音は……

「そいつは違う、殺せ……！」

と、つまらなそうに言った！

その時、化け物が……！！

「シヤア……！！」

と、叫び！……頭の花から蜜のようなものを“ジャ……！”と、夜
音達に向けて飛ばしてきた。しかし、夜音は少女を抱えたまま“ザ

ッー！”と10m後方に下がり！…フェルはどこかに消えていた。
そして、蜜が夜音達がいた場所にかかる時には、夜音達はもう！
……そこに、いなかった！

そして、避けた時、フェルはすでに 化け物の後ろに回っており
！そして、そのまま、

「グルアあ」

と、噛み付こうとしていた。 ……その時、フェルが噛み付く寸
前で…化け物が！

「ンツシヤア」

と、フェルに気づき、ぎりぎり、尻尾でそれをガードし、叩いた
…！

そして“ズダッ！”と、フェルはそれを受け流し！…少し距離を
置いた！ そして、蜜がかかった場所をみた。 ……すると、その
場所は、すべてがドロドロになって…とけていた。コンクリートも
鉄も………！

その時、

「おい、フェル…遊ぶなよ！」

と、夜音は笑いながら言った。

「ワカッテル！ スグニオワラセル…」

フェルはそう言っつて構えた！ その時“ジュッ！”っと！化け物
はもう一度フェルに蜜をかけようとしてきた。しかし、フェルは“
サッー！”と、一瞬でその場所から消えた！……いやー！消

えた様に感じるスピードで、勢いよく、物凄いスピードで化け物に体当たりをかました！すると…化け物は“ドシャァン！！…ザザザッザ”と、吹っ飛び…

「ンがつハ」

と、嗚咽を漏らした…そして、フェルは、その勢いのまま…！化け物に“ガユジュ！！…バチブチヒヤチュ！！”と、噛み付いた…。

「ビキヤア……………」

と、化け物がもがいた！そして、フェルは“ブチンッ！！…！！！”と、それを食いちぎった！すると……………！！

「んぎゃあ……………」

と、街に断末魔が響き渡り…“ビチャビチ！！…ぶる……………ピク……………！”と、のたうちまわり！……………“ジュワァ”と、化け物は黒い霧になって消えていった。

そして、フェルは

「タシカニ…コイツハハズレダ」

と…月をみながら呟いた。

「……………フェル、行こう」

「アア…ソノコハ？」

「連れていくさ！」

「……………すう…ZZZ」

と、夜音達は闇に消えていった…

優歌と夜音は出会ってしまった。

そして、世界の崩壊の歯車が、またうごいた…。

7月27日 17時頃

「キサラ」の西にある！…「ローカ」という街には…ある者が封印されていた！…それを解くために、一匹の赤い犬 ケイ

が…その街に向かっていた!!

封印と出会い！？

7月27日 18時

ケイは…「ローカ」という街に来ていた。そして…その街の地下には、ある者が封印されていた！……………その封印を解くために、ケイは地下に入ってしまった。

そして、ケイは…その地下の最深部にたどり着いた！！その時、その目に映ったのは…水！水！水！…その地下は水で支配されていた！！…しかも、ただの水ではない！全ての水が赤いだ！！！！

ケイはそれを見て！

「…………ふっ！」

と、笑った！！

そして…

『すべて燃やせ！！！！』

と、吠えた！！！！

その時、ケイの目の前に炎がでてきた。すると、その炎が“ゴォ

オ”と、勢いよく燃えていき！！炎が大きくなっていった……そして、次の瞬間、いきなり暴れ出して、地下を火の海にしていく！！そこにあつた水さえも……一瞬で蒸発して消えた！

火の海となつた地下で……“バアツン！！”と、いきなり……何かが破裂するような音が聴こえた。そして、一瞬だけ……“ブオオ”と、黒い炎が地下に広がった！すると、さっきまで地下ですき放題暴れていた炎が、一瞬で消え去った。……それを見た……ケイが！

「クソツ！相変わらず……うぜえ！！」

と、呟きながら、ゆっくり顔を上げた。

ケイの目の前に……“ボツ”と、黒い炎が現れ……それが、“ゴオオ”と、勢いよく燃えた！！そこから一匹の黒いドラゴンが姿を現した！！……そして、ドラゴンが、ケイに向かって……

「久しぶりだなあ、ケイ」
睨んできた！！

すると、ケイも
「……ああ……ガルト！」
と、睨みかえした！！

そして、二匹はしばらく睨みあっていた。

そして、【ガルト】と呼ばれたドラゴンが突然……“バサアア”と、羽を広げた！すると、ドラゴンの体が黒い炎に包まれていく……！

「夜音に伝える！ 感謝はする……しかし、 あいつ を殺すのは、この俺だとな……！」

そう言い終わると、ガルトを包んでいた黒い炎の勢いが強くなり始めた！……炎はガルトを燃やし尽くすと、小さくなって……消えた。

「……………俺も。出よう！」

ケイも炎を体に纏い……消えた。

7月28日 「ココンバ」 17時

(……………けて。お願い……………)

誰！ 泣いているのか…目の前がぼやけて、よくみえない！

(……………してる……………。)

何て言ってるの！

よく聞こえない……………。

(私は……………必ず、あなたを……………)

知らない男の人が目の前で泣いている。それが何故がとても悲しく感じるのだ…そして、私も泣いていて…そして私は何かを言っただけで死ぬ！ そこで、いつも目を覚ますのだ！……………また、この夢か……………！と、まだぼおっとする頭で呟いた。

「……………か、大丈夫か」

優歌は、揺さぶられていた。目をあけると。目の前に知らない男の顔があった！

……………そして、その男が、

「大丈夫か。怖い夢でもみたか？」

心配そうに喋りかけていた。

「…えっ、だっ誰?!」

優歌はビクリして、ジタバタとし…起き上がるつもりとした!…しかし、思うように動けない。

「ちよつ！ちよつと待つて落ち着いて、ねっ」
男がちよつときつそうにしていたが…優歌は全く聞かず、気づかず……。

「えっ！…いや〜」
と、暴れだした！

「……落ち着いて！落としちゃうから…！」
「……え？！落とす??？」

男は少しだけ強めにいった。少し落ち着いてきていた優歌は、自分の状況を改めて、確認した。……すると、優歌は、目を“ばちぱち”とした。今、優歌は目の前の男に抱えられていた！……そう、いわゆる、あの…伝説の！…お姫様抱っこ！というやつだ。

「……………！」

少しだけ時間が止まった。

そして、優歌の体が、‘カア〜’と紅くなっていった！！

「あっ！あの…その！…おろしてください！」
優歌は少し目を回していた。

そして、おろしてもらった！優歌は…

「…貴方は誰ですか?!」
男にもう一回尋ねた！

「ああ！…ゴメン！！俺は…夜音だ！………よろしく」

優歌が戸惑っていると、近くにいた狼が話しかけてきた。

「ヤオト……」

「……んつ。ああ、そうだな！食べながら説明しよう。……」

優歌達は近くのまだ壊れていない家に入っていった。

優歌と夜音達は話をしていた！

「……はあ……」

優歌はよく分からなかった。

この世界とはまた別の世界があるらしい。その世界の一つがゼ口と呼ばれている。そして、そこには神と呼ばれている者達がすんでいるということだ。

（神様って一人じゃないんだ）

と、優歌は思った。

そして、その世界が反転した世界を魔というらしい。その、魔！という世界には、魔神と言われる者達がすんでいる。そして、どうやらこの世界の崩壊は……そのゼ口界を支配している、神のせいだという……。その神が何かをはじめたのだが……それが、何なのかわからない、という事だ。

そして、夜音さん達はその神を殺そうとしているそうだ。

……他にもいろいろと言っていたが……理解できなかった。

「…わかった??」

「はあ…何となく。」

優歌は苦笑いをした。

「あつ!!それと、あの白い化け物は何ですか?」

優歌は思い出したように聞いた!

すると、

「ああ…あいつは、鬼だ!」

夜音は肩を“コキッ”とならし、答えた!

「…鬼?!…鬼って、あの…も〇太郎とかにでてくる?」

「……もも〇郎?よくわからないが、鬼は……神のなれはてだ!」
優歌は首を傾げた。

夜音は少し笑って、続けた。

「よくわからないが…神から精神、心、みたいなのが、なくなった
ら鬼になる!」

夜音は何かを思いだすように、

「鬼はただその力で暴れ回る!善も悪も関係なく壊す!」

と、言った。

「………その鬼をこの世界に送ったのが…神だ!………あと
鬼にも種類があるが、また今度教える!」

「そっかあ……」

優歌は一部しか理解できなかったが、この人達は信用できると思
った。

「…あつあの！！助けられてありがと！夜音さん・フェルちゃん
！！」

優歌は笑った。

「…つぶ！フェルちゃん！！…アハハハハあ」
夜音は爆笑した！
「ワラウナアア」

笑い声が響いていた。

優歌は（夜音さん達が笑ってる！）と内心呟き！安心した。そし
て、この壊れた世界でも少し笑えた…。そして、貰ったおにぎり
を一口食べた。梅味で、とても美味しくて…少し涙が出た。

「……キャハ ……みあつきたい」
「……人のケハイですよ」

謎の二人が夜音達の近くまで来ていた。

7月28日 7時

「ウラス島」は、「キサラ」より北の空にある。その島は雲の中にあるので誰にもみえない。そして、その島は雷が困んでいて誰も入れない！でれない！

その、ウラス島に、一匹の黄色い犬ライが向かっていた！

封印と出会い？

7月28日 8時

ライはウラス島のまえに来ていた！
その島にはある者が封印されている！

ライは…その封印を解きに来た！！

そして…

『全ての雷よ我に従え！！！！』

ライは吠えた！！

すると好き放題暴れていた雷が…“ゴウっ！！”と、轟き！
カ所に集まっっていく。

……集まった雷は“ビュギィビュギィ”と凝縮されていく！
……そして、テニスボールくらいの大きさの玉になり、バチバチ！！
と音をたて…光っていた。

ライはその雷の玉に近づき…“パクリ”と、玉を飲み込んだ。
そして、

「ガァァァァァ」

ライが吠えた！！！！

すると、体が光り……………輝きだした！！！！

そして、すでに雲も雷もなくなった裸の島を、睨みつけ……………！！

『消えろ！！……………雷咆！！』

と、叫んだ！！！！

ライは纏っていた雷や集めた雷を“ビュイン！”と、口から一気に放出した。すると、一瞬景色が真っ白になり……………何も見えなくなっ
た！

そして、光が消えた時には……………島はすでに……………塵と化していた。

……………《ゴオオオオオ》という音だけが轟いていた。

「……………！！！！」

ライは顔をしかめていた。

目の前に、自分が破壊した島の、塵が！一カ所に集まりだしていたのだ！！

そして塵は形を創っていく。

「……………生きてたのかよ！！」
ライはその塵に喋りかけた。

その時、塵の塊が声を発した！

「いきなり酷いによ〜僕泣いちゃうゆ！」

塵は黒髪の女の子になっていく！……………人といつても、頭には猫耳がついている。しかも、尻尾まで生えている！！

「ニヤは　はじめましてかニヤ？ライ君！！！」

塵は完全に一人の女の子になった！

「ああ、はじめましてだ！！みれい」

そして、数分後・・・

「んにゃ〜！僕は神とか世界にゃんでどうでもいいんだよ！」

「……………」

「ただ、闘う事が好きにゃんだ」

みれいは笑みを浮かべ…ライを“とろん”とした、目でみつめた
！！

「でも、まあ今日はやめとくよ……………」

残念そうな顔をして、笑った！

「……………バイバイ」

みれいは塵になって消えた！

そして、ライも雷の如く光り消えていった！！

7月28日 「ココンバ」 21時

夜音達は話し合いが終わって………寝ようとしていた。

「久しぶりです、こんなに安心して寝れるのって！」

「………そうなのか?!」

「はい」

優歌は夜音達に、そう話しながら、近くのソファーに腰をおろした。

その時、ピク!! っと……フェルが何かに反応した。

そして、立ち上がり……

「………ダレカキタ！」

そういつて……その方向を睨みつけていた!

「誰だろうね?!」

夜音は笑っていた!

「………ミテクル」

フェルは……外に飛び出していった!

「……………どうする…優歌？」
夜音は優歌に聞いた。

「私も行きます。私だけ安全な場所にいるのは嫌です！」
真剣な眼差しで夜音を見た。

「……………わかった！じゃあ…行きますか。」
「はい！」

「……………キャハ ……みあつきたい」
「…人のケハイですよ」

謎のゴスロリ女と継ぎ接ぎな熊のヌイグルミが喋っている。

その時、

「オマエラハ、ナニモノダ！」

謎の二人の前にフェルが出てきた！
そして…睨みつけた。

「え ああ狼さんだあゆ」

「この娘はさおりですよ〜！で、私はドルドルですよ〜」

どうやら女の方は、さおりで！ヌイグルミの方が、ドルドルとい
うらしい！

「デ、オマエラハ、ナニシニ、キタ」

フェルは顔をしかめて聞いた！

すると、

「楽しいいコトオ」

「狩りをするですよ〜」

「ドルドルちゃん」

「やるですよ〜」

さおり達はそう言うつと！雰囲気が変わり。さおりの右手が光りだ
した。そして、ドルドルがさおりの右手に吸い込まれていき……“ニ
ユルニユル！！”と入っていった！そして……完全に一体化す
ると……さおりの顔に、何か赤い模様のような物が浮かび上がってき
た。

さおりは“ニヤリ”と笑い……

『狼さん！私と遊びましょ！』

と、大人な雰囲気になった、さおりが睨んできた！

どうやら、あの状態だと喋り方も変わるらしい！！………フェル
はそっちの方が絶対いいと思い………笑った！

『さあ、いくわよ!!　　貴方をわ……………!!』

何かを言おうと、したが、さおりが言い終わる前に…

「ガルアウガッ」

さおりの目の前にフェルが現れ、その鋭い牙で噛み付こうとしていた。

そしてそのまま、さおりの首に噛み付いた!!すると……………“バギッイ!”と音が響いた!

決着がついたものかと思ったが!……………噛み付いた時にフェルはそれが偽物だと気づいた!!

フェルが噛み付いていたのはさおりではなく、人形だ。……………いつのまにか人形にかわっていた!そして……………!

「クソッ」

フェルは唸り!……………人形を“バギヤイン”とかみ砕いた!!

『速いのね!あなた。』

後ろから声がした。

いつのまにか、さおりはフェルの後ろに来ていた!!そして、笑いながら……………

『ハウス！！』

さおりがそう叫ぶと“クオオオオオ”と音が鳴り、周りの景色が歪んでいった。そして、景色が変わった。

でっかいドウルハウスのようなものが現れた。その中にフェルはいるようだ！！

……閉じ込められた。

「……チッ」

フェルはつまらなそうな顔をし……周りを見た！

『ふふ 私の能力の一つはね、私の半径20mにいる者全てを……！このドールハウスに強制的に送っちゃうの』

どこからか、さおりの声がした！

「ナニ？」

『そして、私は、この中にいる者には……無敵よ』

彼女は笑いながら話してきた。

そして、近くにあつた人形達がいきなり“ビュン”とフェルに切り掛かってきた！！

フェルはその攻撃を避けていく！そして、避けながら、“ボキィ……ゴリィン！ブチィ”と人形を次々に破壊していった！

しかし、人形達の破片が集まっていき……すぐに修復していった！……そして、また、すぐ襲い掛かってきた。……その繰り返し……その繰り返し……がさつきから、ずっとだ！！

フェルはふいに壁をみて、そこに走っていった。……しかし、いつまでたっても壁に近づけない！！！！

まるで、ランニングマシーンでも走っているみたいだ！！！！

『ふふ 壊しても無駄よ！何度だって治るんだから！！ それに、壁にも近づけないわ 』

さおりは笑って話していた。

『あとね！ こんな事も出来るのよ ………………！』

何かを唱えた！

すると、人形家の中に“ゴオオツ”と音が響き渡り、突然、水が“ザツバアン！！”と、勢いよく入ってきた！！！！

すぐに人形家の中は、水でいっぱいになった！

「…………グアハ！ゴボオ ロロボロ！！」

と、フェルは少し、溺れそうになった！

『アハハハハハハハハハハハハハハハ 』

「……もうそこだ」

夜音と優歌はすぐ近くに来ていた！

そして、さつきまでフェルがいた場所に到着した！……しかし、そこには誰もいなかった！

「夜音さん……誰もいません！」

優歌は周りをみたが誰もいない……

すると夜音が、ある場所を睨んで

「いや……いる！………その空間に隔離されている！……」
笑いながら！ある場所を見ていた！

「……えっ……」

優歌はその場所をみた。

その時、夜音は

「~~~~~ 伝える」

何かのメロディーを口ずさみ、そして、その空間に向かって、手をかざした……

次の瞬間“バチバチバチ！”と音がして！空間にひびが入っていく。そして！割れた………そこにはフェルの姿がうつついていた……

そして、夜音が優歌に

「あいつに、何か伝えるんだろ？」
と笑いかけた！

優歌は

「はい！」

と頷き！

「……………フェルちゃん頑張ってください……………」
優歌は叫んだ。

そして夜音はひびから手を離れた。
すると、ひびが治っていった。

『…早く、楽になりなさい』
さおりは笑っていた。』

封印と出会い！？

7月28日 23時

キサラより東の国「ハーリン」。ハーリン国にある、山には……呪われた者が封印されていた！！

その封印をとく為に、青い犬はハーリンに来ていた。

しかし、その国に来た、ヒョーの目に映った光景は………破壊された国、と、崩れた山！！

そして、ヒョーが封印を解くはずだった者が“ズタズタ”に切り裂かれて死んでいた！！！！

「……………何故貴方がこんな所にいる！！白狼シロウ」

ヒョーが顔をしかめながらそう言つと、目の前に一匹の白い狼が現れた。

7月28日 「ココンバ」 21時45分

フェルとさおりは鬨っていた!!

『…早く、楽になりなさい
と、さおりは笑っている。』

(チカラ・ヲ・ツカウベキカ?)
と、フェルは考えていた。

その時、
「【フェルちゃん頑張ってください!!!】」
と、優歌の声がした。

(フェルチャンツテ、アノヤ……マアイイ)
フェルは笑った!……そして、…フェルは少しだけ、異能を使う
事にした。

『何だ、今のは?…まあいい、早く楽になりなさい
と、さおりは笑う。』

(デワ…ツカウカ。)

『闇よ我に従え……全てを喰らい尽くせ』

すると、フェルの周りに黒い霧がでてきた！…その黒い霧はフェルを包んでいった。……そして、小さな黒い玉が“ズオオ”と三つほど現れた！…それが“ジジツ”と音をたてながら大きくなっていき。そして、半径1mくらいの大きさになった。すると、その黒い玉は“グジュズジリイギイイ”と音をだしながら…素早く動きまわる。……その玉が通った所には何も残らず、さわった物を全て削りとっていった！そして、黒い玉はあつという間に人形家を喰らい尽くしていった。

そして、フェルは“ビュン”と元いた場所に戻ってきた。

『……何よそれ。』

と、さおりは呟き…その場に座りこんだ……。

フェルはさおりに

「マダヤルカ？」

と、問い掛けた。

すると、

『もういいわ…私の負けよ。』

と言って、能力を解除した。すると“ボン”と音がし……。

「グアですよ〜」

と、熊のヌイグルミが出てきた。

そして、フェルも異能を解除した。

その時、

「お疲れ様…フェルちゃん」

と優歌がフェルに近づいて行って、抱き着いた。

「…ハア、モウイイヨ…ソレデモ」

と、フェルは苦笑いをした。

「…お疲れ様、大丈夫？」

と、夜音はさおりに話しかけた。

「…えっ#」

「…ですよ〜」

二人はキョトンとしていた。

そして、

「君はドールだよな？」

と、夜音はさおりに尋ねた。

「ひゃは# よ兄いきゃん かつけ〜%#」

「そうですよ〜」

それから、三人??二人と一体?で話していた。が、途中でさおりが能力を使い、二人で話していた。

『皆さん さようなら!!...それと、夜音さん! あいつ を殺すのは...私たち【マリオネット】ですよ』
と、さおりは言い残し...帰っていった!

7月28日「ハーリン国」21時

白狼は、ハーリン国のバルナイ山に来ていた!.....その山の上には、ある者が封印されていた!.....!

そして、白狼はバルナイ山の頂上にたどり着いた!.....!すると、そこには.....すでに、一匹の獣がいた。.....その獣は、猿のような見た目!に、黄色い羽を生やした化け物がいた!!

「久しぶりだな！……カノロイ。」
と、白狼が言った。

すると、

「……何しにきた？？！白狼……」

と、カノロイと呼ばれた者が答えた！

そして、白狼は、目の前の猿の化け物を見て……！

「カノロイ！……お前を殺しに来た！！！」と、告げ……！

「で……お前は、今、どこにいるのだ！！！」

と、顔を変えずに……たんとんと話した……！

すると……

「俺はね……ハーリン国のどこかにいるよ」

と、白狼を馬鹿にするような感じで言った！……そして、

「…………だけどね！その山中に、俺の創った怪物を沢山……ばらまいたから！死なないように……。じゃね！」

と、言ってきた……。

その時……白狼は、

「この国にいるのか……」

と、呟き……微かに笑った！

そして…

『貴方の罪を貴方と共に切り殺そう！！…私が……許す！！』

と、何かを唱えた！！

すると、突然！バルナイ山 やハーリン国が“ゴオオオオオオオ”と、音がし揺れ始めた！！その時！……山や国中の下から、山一つ分くらいの剣が無数に“ズザザザクザクツツザツツザツツザ”と、国や山を…切り・砕き・崩しながら現れていった！！……すると、国や山があつた場所がものすごい大きな剣で、埋めつくされた！！！！

そして、白狼が剣を消すと！“ズドガシャコアガアゴオシャア！！ドツカアン！！”とものすごく大きな音をたてながら…破壊されていった！

「……………確かに死んでるな！！」

と、白狼はカノロイのの死体を見つけると！…そう言った。

封印と出会い？

7月29日 3時

東にある……とある街の廃ビルの地下。その中の一室！明かりは蝋燭だけ……9つの影が揺れていた！

「……………」
「遅い。」

「はは……確かに遅いな！……でもまあ、待つのが嫌いじゃないし！」
「何かあったんじゃないでしょうか……！さおりさんに何かあったら、僕は……………」

「あの娘は遊び足りないんでしょ うん！元気がある娘は可愛いよね〜」

「……………ZZZ…ZZZZZZ…ZZZZZZZZZ！ZZZZZZZZZZ〜んあ」

「理由なんて！いつでもいいんだよ……俺様をまたせるなんて！いい度胸じゃねえか」

「……………本当だよ。僕の時間を奪うなよ！ただでさえ天才な僕は忙しいって言うのにさ……」

「俺達10人で マリオネット じゃねえか…仲良くしようぜ なあ！みんな」

「まあ、みんな落ち着いて。いつもの事じゃないですか！……………」
「あえ、みんなで始めましょう……………」

9つの影はそれぞれがどう動くべきかの話し合いを始めた……………

……。

7月29日 「ハーリン国」0時

ヒョーは考え込んでいた。(何なんだよ……一体。意味がわからない!!)

「アアアアアアアア!!……クソツ!!」

と叫んだ……

ヒョーはイライラとしてきた!

「何で私が……こんなにイライラするのだ!!」

と、ヒョーが言っていると…… “バリ!パリパキパキパキパキパキ” とヒョーの周りが凍り始めた。そして、ついには!ヒョーを中心に半径40m四方!が凍りついた!!……

「……あっ!しまった」

(イライラしてたら、つい異能を使ってしまった)

「……ふう。落ち着け」

とヒョーは深呼吸した。

(何で白狼はあんな事！言ったのだ？……………あれは一体どういう意味だ)

30分ほど前

……………。

「…それで、何故…貴方が彼を殺したのでしょうか…？」

(あんなに…優しかった方が何故?!) ヒョーは白狼を見た。

「……………憎んでいからだ。……………殺したい程にな!!!!」

白狼は それ を睨みつけた。

そして…また、こちらをみて

「……………だから、殺した!!」

と、優しい目をして笑った。

「……………何かあったのですか?!」

と、ヒョーは聞いてみた。

すると、

「……………話す必要はない！何故言わなければならない……………それに、話したくはない。」

白狼は目を閉じた。……………そして、

「……………殺した理由は他にもある!」

と呟き…こつ続けた

「まず、そいつは…夜音を殺そうとしていた!!!!……それと、グレイアにそいつを殺せと言われたからだ!!!!」と言った!

そして、後ろを向き…立ち去ろうとしていた!!

「!!!!!!待て!……今何と言った。」

ヒョーは白狼を呼び止めた。

そして、

「…今!グレイアと言ったのか……!!!!!!」
と聞いた。

白狼は…首だけをこちらに向け、

「そつだ!……私はグレイアの方に加勢する。」

そして、

「……夜音を死なせたくないからな!」
と呟いた。

「……………!!どういう事だ?」

ヒョーは訳が分からなかった!

「私は、夜音を死なせないために!…グレイア側についた……………。
それだけだ。」

そつ言って消えた。

そして、今に至る。

「くそ!……………こつでこつして、考えていても埒が明かない!…!
と、ヒョーは気持ちを切り換えた。」

そして、
「私は、私が出来る事をやるだけ!!!」
と呟き…この地をあとにした。

7月29日 4時

南の「クナ」という街にある……森の中！そこに…白狼は入って
いった！！そして、白狼の目の前にある木から…一人の少女と変な
又イグルミが出てきた。

…そいつらは、白狼に

「ひゃいほお 白狼ちゃんやあ！」

「白狼さんですよ〜ドルドルですよ〜」
と喋りかけてきた。

………そして、

「 久しい あは」

「久々ですよ〜会いたかったですよ〜」
と続けた！

「………その喋り方をやめろ！………さおり」
白狼はその女にいった！

すると、さおりは

「……………ふう〜。久しぶりね…白狼！」

と喋り方が変わった！というより…元に戻った！と言うべきだ。

……………

「さおりですよ〜疲れたですよ〜」

と、ドルドルは変わらないみたいだ。

「一週間ぶりだな、さおり！ドルドル！」

白狼は軽く笑った。

「それで…目的は達成できたのかな？白狼・さ・ん！」

と、さおりは聞いてきた。

白狼は、

「ああ！一応はな……………お前の方はどうなんだ？！」
と聞いた。

「んっとね…大丈夫だよ！！……………ばれてない。」
と、言い

「…それに、夜音さんにも会えたしね！」
と笑って言った。

「フェルともですよ〜闘ったですよ〜」
と、ドルドルが続いた！！

白狼は、

「……………そうか。……………では、我々も動くとしよう！…！」
と、言って…森の奥に消えていった。

7月29日 5時

キサラより南！：「アルカ」という街の上空…そこのある空間は、時間が止められていた。

そこに、二人の女が現れた。…マヤとカヤだ。二人は双子で見た目はほとんど一緒だ。二人とも、黒髪ロングで、身長が160cm程度！そして、スタイルもいい…二人の外見の違いは前髪だ！マヤは右の前髪が長く、カヤは左の前髪が長い！！…顔は美人なのだが、少し冷たい雰囲気纏っている…。

そして…その空間の前に来た二人は、

『ここだな！…では始めるぞ。』

と、同時に言った！…

そして、

『《時よ……！！！！》』

と、唱えた！

すると、二人の目の前に時計のような…光の円が現れた。その円には長針が一本だけついていた。

そして、二人は

『……………動け!!』

と、唱えた!!

その時、その長針が一回転し始めた。そして、“ガチツ”と音がした。すると、目の前の空間が“バキヤ”と、ひびが入っていき……………砕け散った。そして、その空間から……………一人の男が現れた!!

7月29日 4時

キサラ島の反対側にある海「ナメイ海」!その海にも……………何かが封印されていた。

そして、その海に……………みれいはたどり着いた!!

そして、

「久しぶりにゃ ガルト」

と、その場所にいた黒いドラゴンに話しかけた……………!

封印と出会い！？

7月29日「ナメイ海」4時頃

「……………みれい！ やつときたか！」

ガルトはその場所に来た女をみて、言った。……………そして“ふっ！”と笑った。

「…にはは ……感動の再会か ……？」

と、みれいは笑った！

みれいは突然…全身を“ブルブル”っとさせ、ガルトをみた。

そして…

「…！僕はもう……………！嬉しすぎて興奮してきたにや ……！」

“ウズウズ”しながら喋りかけた！

「……………相変わらずだな。……………みれい」とガルトは…呟いた。

そして急に！…“キツ！”と顔つきが変わり、「……………その感動の再会とやらに！邪魔者も来たみたいだな…！」

と後方を睨みつけた。それだけで、普通の人間ならば気絶していただろう…！それだけの迫力はあった…！！

「……………そうだね 僕達に気づかれにやいとでも思ったのかにや

！」

と、みれいは楽しそうにしていた……………。

すると、そこに一人の男が突然…初めから、そこにいたかのように現れた。

その男は、どこにでもいるような、特徴も何もない平凡な若者の姿をしていた…。

そして…その男は、ガルト達の方に…少しだけ、近づいてきて！
「………すみません。隠れるつもりはなかったのですが………再会の邪魔としては、悪いなおもい！…つい！隠れてしまいました！お許し下さい。」
と喋りかけてきた！

「………で、君は誰にやんだい！」
と、みれいが聞いた！
すると、お辞儀をし
「始めまして、みれい様、ガルト様………私は、ナツと申します！」
と男が言った！

「それで…お前は何しにきたのだ……！」
そう…ガルトが聞くと！
「はい！………白狼様に、お二人の仲間になるように………と、言われてここに来ました！………よろしく願います……！」
と真面目な顔で言う！

「………にははは………！！ 白狼君かあ………久しいのにはあ………」

……白狼君も、この戦いに参加するんによ……」
と懐かしそうに笑い……

「で、どうする ガルト！！絶対、にゃにか企んでいるにゃあ！
と、みれいは“ニヤニヤ”しながらガルトをみた！
ガルトは、

「……白狼め！何を企んでいやがる……！！」
と目を閉じて、呟いた……。

そして、しばらく考えていた。

すると

「……ツクツククウククク！！ガッハッハハハハ」

と……ガルトはいきなり笑いだした！

「ニヤは……決まったかにゃ？！」

とみれいは横で首を傾げていた……

ガルトは、

「いいだろ！白狼の野郎が何を企んでるか知らないが……俺も、
お前を利用してやる……！」

と呟き……ナツをみた！

そして……

「……仲間にしてやる……！……だが邪魔になったら！すぐに殺すか
らな……！」

と、睨みつけた！

ナツは

「……はい。よろしくお願いします……！」
と、頭を下げ……

「それと、白狼様から……お二人に伝言があります……！」

と、続けた。

「んっ！！にやにかにや？」

「はい。……今、この世界に、神が一人来ているそうです！！」

「……………神だと?!?!……………それは、グレイアか??」

ガルトは目の色をかえた！

「……………！」（グレイアね…ゼロ界の王様！そして、ガルト達が憎み…殺そうとしている奴にや）

「いいえ、違うようです。ただ…白狼様は、こう言えば分かるとおっしゃりました。……………聖偉騎士団の一人…マーフィア！！だと。」

7月29日 5時頃

「アルカ」の上空に……………マヤとカヤはいた。そして、その封印から解かれた男と話をしていた！

『お久しぶりです。……………リーパー！』

「……ああ、久しぶりだ！……それで、お前達は戦を始めるのか？？」

『……はい！』

「……そうか。」

その時、リーパーと呼ばれた男は…突然！右手を前に突き出し…

「~~~~~！！！」

何かを唱えた。すると、目の前に青い霧が生まれていき、辺りいたいを包んでいった！その霧の中…男の右手の近くで、青色の怪しい光りを放ちながら、一本の鎌が形成されていく。…そして、一本の鎌が出来上がった！…男はその出来上がった鎌を握り。感触をたしかめるように軽く振った。…すると、一瞬で霧が消えた！

リーパーは二人の方を向いて、喋りかけた！

「…マヤ・カヤ…私達は皆、グレイアを殺したい程憎んでいる！」

リーパーは悲しみと怒りが混じったような顔をした！

「そして、グレイアを殺すという！目的地は確かに一緒だ…！」

と続けた！…そして何かを決心したかのように！

「……しかし、その後はどうだ？！……皆違う道を進む！…

……だからこそ、その先にある目的のために、私は…！この戦には

……参加しない！」

と話した。

それを聞いていたマヤとカヤは

『……そうですか。』

と、全く興味がなさそうに頷いた。

そして、

「……それで！話は終わりですか。」

とつまらなそうに言った。

「……ああ！」

と、リーパーは苦笑いをして、鎌を握り直した。…そして、その場で…鎌を軽く振り回して、構えた。すると、鎌の刃が青く光り…目の前の何も無い空間に…その鎌を振り下ろした！…“ブオン”と音がして、空を切り裂いた。その時、切り裂かれた空間が歪みだし…………空が“パツクリ”と割れた。そして、その割れ目からは別の世界の景色が見えていた！

「……じゃあ！私は帰る。まあ…どうせ、すぐに会うだろうがな！夜音達によろしくと伝えといてくれ！………じゃあな。」
と、言い残し………。その割れ目に入っていった！………そして！すぐに、その割れ目は閉じた。

その後…マヤとカヤは何もいわずに………その場所からどこかに去っていった。

7月29日 5時 「ナメイ海」

「………封印はどつするのじゃ？」

「どうせ、他の奴らがやるさー!」

「それもそうだが」

「……………」

ガルト達三人は“ナメイ海”を後にしていた!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1047y/>

レクイエム

2011年11月11日10時40分発行